

**2020年度鋼材規格三者委員会
書面審議（JIS Z 2254 改正）結果**

1. 審議対象： JIS Z 2254（薄板金属材料の塑性ひずみ比試験方法）の改正について
2. 審議内容： JIS Z 2254 改正案(JIS 素案)の可否についての審議
3. 審議期間：2021年2月22日（月）～2021年3月3日（水）
4. 決議年月日：2021年3月4日（木）
5. 委員数：30名
6. 審議結果：承認

<回答結果> 可 30名 *
 否 0名

* 田中副委員長、桑原委員、中澤委員からコメントがあり、添付のコメント表に記載した対応と致します。

以上

| 1 | 2 | (3) | 4 | 5 | (6) | (7) |
|-----|--|-------------------------|------------------|--|-----|-----------------------------------|
| 委員名 | 項目番号 (e.g. 3.1) 箇条番号は繰り 下げ済番号 | 節番号 表等 (e.g. 表 1) | コメン トの タイプ | コメント内容 | 修正案 | 主査意見 on each comment submitted |
| 田中 | 2 | | ed | JIS B 7741 一軸試験に使用する伸び計の校正方法 → JIS B 7741 一軸試験に使用する伸び計システムの 校正方法 | | 採用 |
| 中澤 | 附属書 A | A.3 | Ed. | Rp0.2 について。以下②の現状ままでもよいか、と思 いますが、意見させてください。 ここは、表 1 では、Rm : 引張強さ しか記載されていま せん。これについては、 ①表 1 に記載するか。 ②一方で、附属書 A は、参考であり、かつ、Rp0.2 は、 引用している JIS Z2241 に規定されているので、現状ま まとするか。 ③A.3 に、ここで、Rp0.2 は、JIS Z2241 の表 1 または 3.10.3 に基づき、「塑性伸びが Le の 0.2% になったとき の耐力 (オフセット法)」というのを、注で加えては、 と思います。 | | ①を採用 |
| 桑原 | 5 | 図 1 | ed | 図 1 の記号説明の、2, 3, 4 項において： 後続の不等式で現れる記号「 ϵ_{p_a} 」「 ϵ_{p_b} 」の名称と の整合性から、文中の「塑性ひずみ」は「真塑性ひず み」に修正した方が better かと存じます。 | | 採用 |
| | | | ed | 図 1 の記号説明における a について： 「a : 塑性による伸びの増加」とありますが、a は板厚の 記号として用いられているので、紛らわしいかと存じま す。 「a」を「ep_L」に変えることを提案します。ep_L はそ のまま長手方向塑性ひずみを表すので、あらたに記号を 導入する必要もなく好都合かと存じます。 | | 採用 |
| 桑原 | | | te | 式 (7) の下の行および 9 ページ 4 行目： 現行 「この塑性ひずみ比決定法は、塑性ひずみが均一である 場合にだけ有効である。」 修正案 | | 採用 |

| 1 | 2 | (3) | 4 | 5 | (6) | (7) |
|-----|--|-------------------------|------------------|---|-----|-----------------------------------|
| 委員名 | 項目番号 (e.g. 3.1) 箇条番号は繰り 下げ済番号 | 節番号 表等 (e.g. 表 1) | コメン トの タイプ | コメント内容 | 修正案 | 主査意見 on each comment submitted |
| | | | | 「この塑性ひずみ比決定法は、標点距離内の塑性ひずみが均一である場合にだけ有効である。」 | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |